

日ラグ協発第 16-741 号

平成 29 年 2 月 8 日

関東ラグビーフットボール協会

会長 水谷 眞 様

関西ラグビーフットボール協会

会長 坂田 好弘 様

九州ラグビーフットボール協会

会長 森 重隆 様

(公財)日本ラグビーフットボール協会

専務理事 坂本 典幸



訂正 競技規則適用のガイドライン - 頭部へのコンタクト<通達>

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件につきまして日ラグ協発第 16-703 号にてご連絡申し上げましたが一部内容に間違いがありましたので下記の通り訂正(赤字部分)いたします。

関係各位へはご迷惑おかけいたしまして申し訳ございません。お詫び申し上げます。

三地域協会、都道府県協会におかれましては、お手数でございますが関係各所、チームへ再度周知徹底をいただけますようお願い申し上げます。

敬具

記

ワールドラグビーの執行理事会は、定款第 12 条に則り、頭部へのコンタクトに関する競技規則適用のガイドラインを作成し、2017 年 1 月 3 日より施行する。各メンバー協会によるガイドラインの適用にあたり、以下のリンクにある事例映像も参照していただきたい:

<http://laws.worldrugby.org/guidelines>

また、さらに詳しい学習用映像も作成し、下記のリンクからご参照いただける:

<https://mab.to/rYURQilAe>

【訂正】 <http://www.worldrugby.org/video/213346>

記

ワールドラグビー競技規則の適用に関するガイドライン

「無謀な、および、意図的ではないタックル」(日本語版)

<http://laws.worldrugby.org/?domain=9>

以上

無謀な、および、意図的ではないタックル

2016年11月

無謀なタックル

タックルをしているとき、または、タックルをしようとしているとき、あるいは、その他のフェーズのときに、接触をするときに相手の頭部に接触する危険があることをわかっていた、または、わかっているべきであったのに、いずれにせよそうした場合、そのプレーヤーは無謀な接触を行ったとみなされる。この時の罰は、肩の線より下から入ったタックルにも適用される。このような接触は、たとえ肩の線より下からの接触だとしても、頭部/頸部の周辺をつかんだり、回したり、巻きついたりする行為もあてはまる。

最も軽い罰: イエローカード

最も重い罰: レッドカード

意図的ではないタックル

タックルをしているとき、または、タックルをしようとしているとき、あるいは、その他のフェーズのときに他のプレーヤーに接触する際に相手の頭部に意図的ではない接触をした場合、それが直接であっても、肩の線より下から入ったタックルであっても、そのプレーヤーは罰せられる場合がある。ボールキャリアーがタックルが起きるときに身を低くするような状況も含む。

最も軽い罰: ペナルティ

例: ペナルティのみ